

西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業

国の共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）の予算配分を受けて昨年度からおこなっている「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を今年度も継続しておこなった。

センターでは、所蔵資料の保存事業を通じて蓄積された西洋古典資料の保存と修復に関する知識を、講習会等によって他機関と積極的に共有してきた。今回の事業は、こうした実績を踏まえて、(1) 西洋古典資料の保存について中核的な役割を果たす人材を育成する実務研修事業、(2) 所蔵資料の保存修復事業、(3) 全国の大学等研究機関における西洋古典資料の所蔵・保存状況の実態調査を同時並行的に進めることで、国内における西洋古典資料の保存水準の全体的な底上げを目指すものである。

今年度の実績として、国立国会図書館（2回目）、九州大学、東北大学の3機関から研修生を受け入れ、それぞれ3週間、8週間、6週間の実務研修を行うとともに、シンポジウムを開催した。

平成28年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「書物の構成要素としての紙について～本の分析学」

上記事業の一環として、国立大学図書館協会東京地区協会の後援を得て、2017年2月15日（水）に、一橋大学 如水会百周年記念インテリジェントホールにて、紙資料の保存に焦点をあてたシンポジウムを行った。

プログラムは以下のとおり。

開会挨拶 中野聡（一橋大学副学長）

趣旨説明 山部俊文（一橋大学附属図書館長・社会科学古典資料センター長）

講演 「洋書の紙質と本の寿命について」

吉川也志保（一橋大学言語社会研究科特別研究員）

「洋紙の原材料を観察する」

宍倉佐敏（女子美術大学特別招聘教授）

「『モノ』が持つ情報とその保全～科学・技術の限界～」

加藤雅人（東京文化財研究所文化遺産国際センター国際情報研究室長）

全体討論および質疑応答 コーディネーター・江夏由樹（帝京大学教授）

閉会挨拶 屋敷二郎（一橋大学社会科学古典資料センター教授）

保存科学の研究者や繊維分析の実践家による三者三様の講演であり、デジタル化の趨勢の中で紙資料の保存の可能性必要性を科学的に検討しようという企画であったが、当日は、全国の50近い機関から100人を超える参加者にお集まりいただけた。

平成29年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「本の分析学②～本の革」

おなじく国立大学図書館協会東京地区協会の後援を得て、2017年12月22日（金）に、一橋大学兼松講堂にて、革装本の保存に焦点をあてたシンポジウムを行った。また、関連企画として、社会科学古典資料センター附設保存修復工房見学会と、実務研修受講者報告会を同日に開催した。

プログラムは以下のとおり。

1. 一橋大学社会科学古典資料センター附設保存修復工房見学会

2. 実務研修受講者報告会

概要説明 鈴木宏子（一橋大学学術・図書部長）

研修報告 倉持隆（慶應義塾大学三田メディアセンター）

研修受講者による討論・質疑応答

高石しのぶ（北海道大学附属図書館）、倉持隆、由利江里子（大阪大学附属図書館）、

原賀可奈子（九州大学附属図書館）、菊地良直（東北大学附属図書館）

3. シンポジウム「本の革」

開会挨拶 山部俊文（一橋大学附属図書館長・社会科学古典資料センター長）

講演 「革のできるまでと特性」

宝山大喜（東京都立皮革技術センター）

「本の革の魅力と悩み」

岡本幸治（製本家・書籍修復家）

討論・質疑応答 宝山大喜、岡本幸治、吉村圭司（東京都立皮革技術センター）

閉会挨拶 屋敷二郎（一橋大学社会科学古典資料センター教授）

革装本の長期的な保存について問題提起を試みる企画であったが、大学図書館ばかりか博物館等も含めて、保存実務担当者など100名を超えるご参加をいただいた。

科学研究費助成金事業

平成29年度から科学研究費助成金（基盤研究（C）「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、平成29年度～31年度、課題番号：17K00465、研究代表者：江夏由樹）を獲得し、社会科学古典資料センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人が東南アジア・西アジア各地を旅行した際の記録である書物について、内容分析を行っている。

ひらめき☆ときめきサイエンス

平成24年度から毎年行ってきた中・高校生向けセミナー「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（日本学術振興会助成事業）を本年も実施した。開催日は7月17日（月祝）で、屋敷二郎・センター教授を実施代表者として、「本を残す 本を伝える～古典資料の保存・修復・活用～」と題して行われた。例年おこなっている社会科学古典資料センター書庫の見学やセンター貴重書保存修復工房スタッフの指導による保存箱の作成や製本実習、ページ修理の実習などに加えて、実施代表者によるブックトークの時間を設け、学術研究の現場に触れる機会となるよう工夫した。当日は、中学生1人、高校生9人、付添者5人のあわせて15人が、朝10時から午後4時の修了式までさまざまな演習に参加した。

第18回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7月5日（水）から7月7日（金）まで3日間開催し、全国の国公立大学図書館等から10名が参加して、実習を中心に行った。

1. 紙の材質と劣化、保存のための環境

- 三浦功美子（伝世舎代表）
2. 資料の保存計画 三浦功美子
 3. 災害から資料を守り、救うために
真野節雄（日本図書館協会資料保存委員会委員長）
 4. 資料保存と製本構造，調査票の記入・活用，本のクリーニング，革装本の手入れ，書見台の製作，保存製本，保護ジャケットの制作，修理用和紙の染色について，ページ修理の基礎，見返し・表紙角の修理，封筒フォルダーの製作，保存箱の制作
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

第 37 回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で，10月25日（水）から10月27日（金）まで3日間開催し，全国の国公私立大学図書館・専門図書館等から25名が参加した。

古典研究

- (1) ギリシア古典の世界とコンスタンティノーブル
大月康弘（一橋大学大学院経済学研究科教授）
- (2) ユストゥス・メーザー『祖国愛の夢』を読む
鈴木直志（中央大学文学部教授）
- (3) カーネギー国際法古典叢書探訪
大中真（桜美林大学リベラルアーツ学群人文学系准教授）

書誌学

- (1) 西洋古典資料の目録作成
床井啓太郎（東京大学大学院経済学研究科特任研究員）
- (2) 記述書誌を“読む”面白さ ― 図書館員のための書誌学入門
武者小路信和（大東文化大学文学部准教授）
- (3) 目録作成実習
福島知己（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

保存・修復

- (1) 紙，及びその劣化と保存
三浦功美子（伝世舎代表 東洋書画保存修復）
- (2) 西洋古典資料をもっと知るために
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

展示論

東大駒場博物館『マザリナード集成』展の試み
一丸禎子（学習院大学非常勤講師）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

訪問利用の事前予約制について

一橋大学社会科学古典資料センターのご利用が予約制に変わりました。センターに来訪して所蔵資料を利用することを希望する学内者・学外者は、センターウェブページ<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/information/index.html>のお申込フォームからご予約ください。

お急ぎの場合はご相談ください。その場でご要望に応じられないときがございます。ご容赦願います。

日誌（2017年1月～12月）

1月25日 第17回社会科学古典資料センター専門委員会

- 議題：1 平成27年度決算報告及び平成28年度予算案について
2 平成29年度事業の予定について
3 年報の編集体制について
4 平成27年度事業報告について
5 平成28年度事業進捗状況報告について

2月15日 平成28年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「書物の構成要素としての紙について～本の分析学」開催

3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第37号発行

3月31日 Study Series No. 73：森宜人訳「カール・ビュッヒャー『現在と過去の大都市』」発行

5月13日 第12回一橋大学ホームカミングデー記念展示

6月16日 博物館資料保存論のための見学会開催

6月21日 第18回社会科学古典資料センター専門委員会

- 議題：1 平成28年度決算報告及び平成29年度予算案について
2 平成29年度事業計画について
3 センター利用事前申込制の導入について
4 平成28年度事業報告について
5 平成31年度以降の保存修復工房の運営について

7月5日～7日 第18回西洋古典資料保存講習会 開催

7月17日 ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える～古典資料の保存・修復・活用～」開催

7月30日 2017オープンキャンパス特別資料展示

9月1日 馬場幸栄助教が附属図書館研究開発室に着任

9月30日 床井啓太郎専門助手が任期満了により退職

10月25日～27日 第37回西洋社会科学古典資料講習会開催

12月22日 平成29年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「本の分析学②～本の革」開催

利用状況（2017年1月～12月）

開館日数 232日

来館者数 51人

（学内）17人

(学外) 34 人
利用册数 67 册
文献複写申込受理件数 19 件
複写册数 26 册
見学者数 69 人